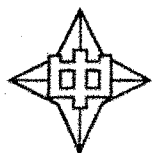


令和5年度さいたま市立与野南中学校 学校だより

み な み か ぜ



南 風

第 1 3 号

令和6年3月1日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

〈学校教育目標〉 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

校門の鉄扉が倒れました・・・

校長 吉原 誠 士

気象庁のホームページには気象災害を「大雨、強風、雷などの気象現象によって生じる災害」と説明しています。例えば、農業関係者に脅威となるのは「冷害（植物が全般的に育たなくなる）」や雹害（農作物に傷がつき売り物にならなくなる）、「霜害（新芽に霜が降りると枯れてしまう）」など、日常生活に影響が出る「大雪害」や「大雨害」などです。本校の頑強な鉄製正門が北風で倒れたのは「風害」です。その瞬間に門外を通行していた方には怖い思いをさせてしまいました。生徒や教職員には授業中だったこともあり被害はありませんでした。しかし、重い扉が丸ごと転倒したのは大事です。

現場付近に居合わせた教員から一報が入ると同時に、職員全員が動き出しました。けが人が出ていなくても緊急事態であることは一瞬で理解できたのです。現場での被害状況の確認と片付け、校庭の防球ネット等の安全確認、大きく揺れるボールの旗の降下などは互いの簡単な声掛けとアイコンタクトで次々に進みました。教務主任が動線の制限と注意喚起の放送を入れ、教頭が発生した事態を整理して安心メールを発信しました。やるべきことを各自が考えながら粛々と進行させた訳です。

生徒たちも立派なものでした。安全を囀る放送がなくても、おそらくは大丈夫だったのではないかなとまで思わせてくれます。周囲で起こっていることを見ながら適切な行動ができるのです。野次馬のように現場に行こうとする者はいません。話を盛って噂話をしようとする者も皆無です。それどころか、教職員の慌たしい動きがわかっていたのでしょうか、「先生方、ありがとうございます」とお礼まで述べられてしまいました。与野南中学校の生徒には優しい子どもが多いのです。先月には路上で困っていた児童を助けて小学校まで送ってくれた1年生がいたとも聞いています。本当に清々しいですね。

40年の教職経験があっても想定できない事態が発生することには慄然とします。台風来襲時に学校泊で警戒に当たった時にもこんなことはありませんでした。「だから思いもしなかった」、これが油断と言えるのかもしれませんが。危機管理について言えば、上に書いたのは「事後」の対応が見事だったということです。改めて「あらゆるケースを想定せよ」を合言葉に、危機の発生を未然に防ぐように努めてまいります。まずは本校の教職員と生徒たちを信じ、さらに鍛え上げられるのを楽しみにしててください。安全の先に安心が待っています。皆様からご理解、ご協力をいただけることを信じています。

一見、解放されたようで防犯上の不利もあり、ご心配をおかけします。まずは人的な被害を避けられるような物理的な状態を徹底させたいと考えています。応援よろしく願います。